

RealSenseとMediaPipeを組み合わせた 3Dバーサライタ DoiLab

VR、AR等の普及で、3D表示が一般的に使われるようになってある程度時間が経ちます。しかしながら、実際に使用の際にはいくつか問題もあり、空間に立体が結像される立体ディスプレイの開発が望まれます。本展示では立体ディスプレイを実現するためにバーサライタ(Persistence Of Vision)を3Dに拡張した「3Dバーサライタ」を中心に、深度カメラとライブストリーミング向け機械学習ライブラリーの MediaPipe を組みあせた立体ガジェットを紹介します。

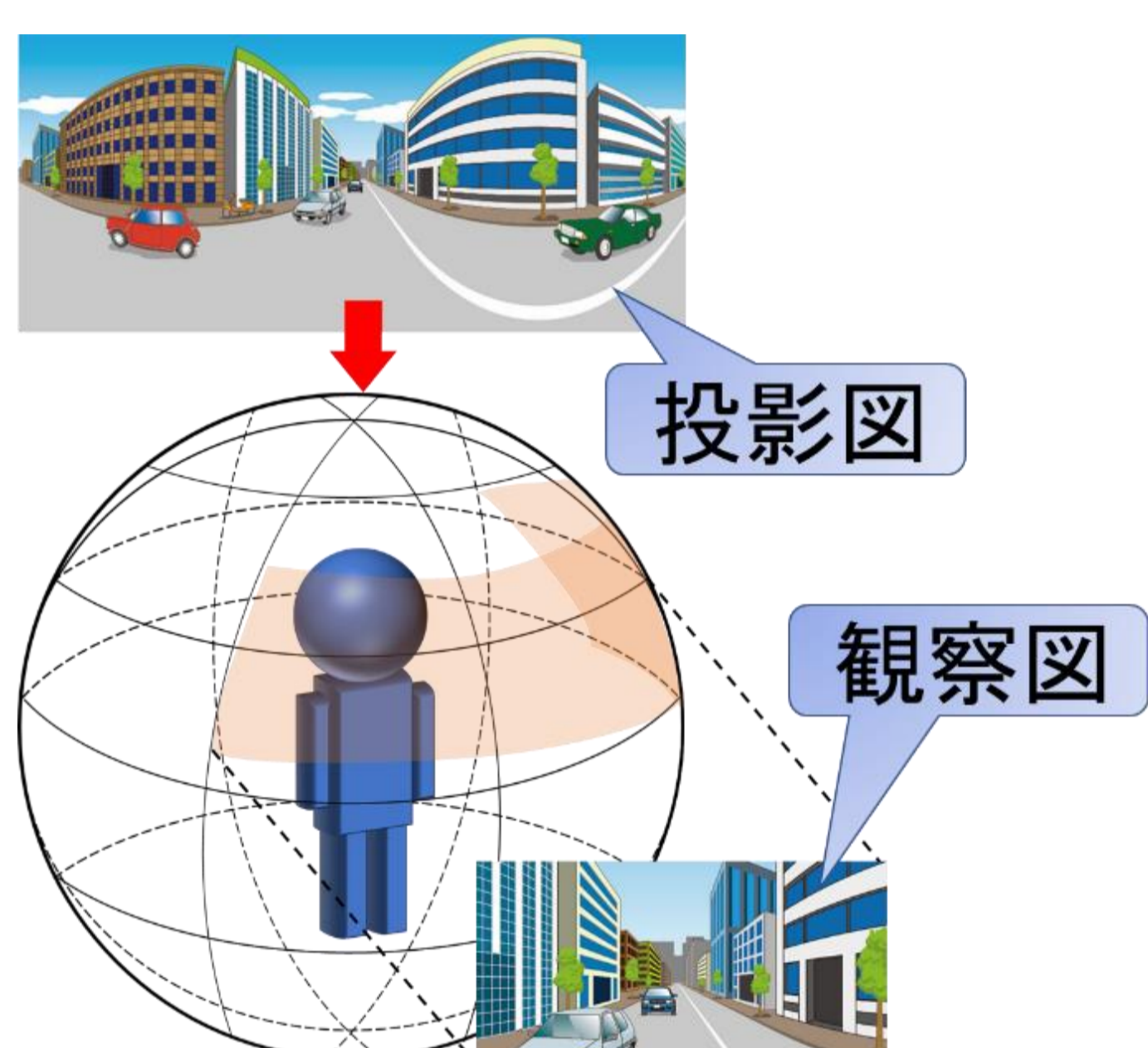


VR



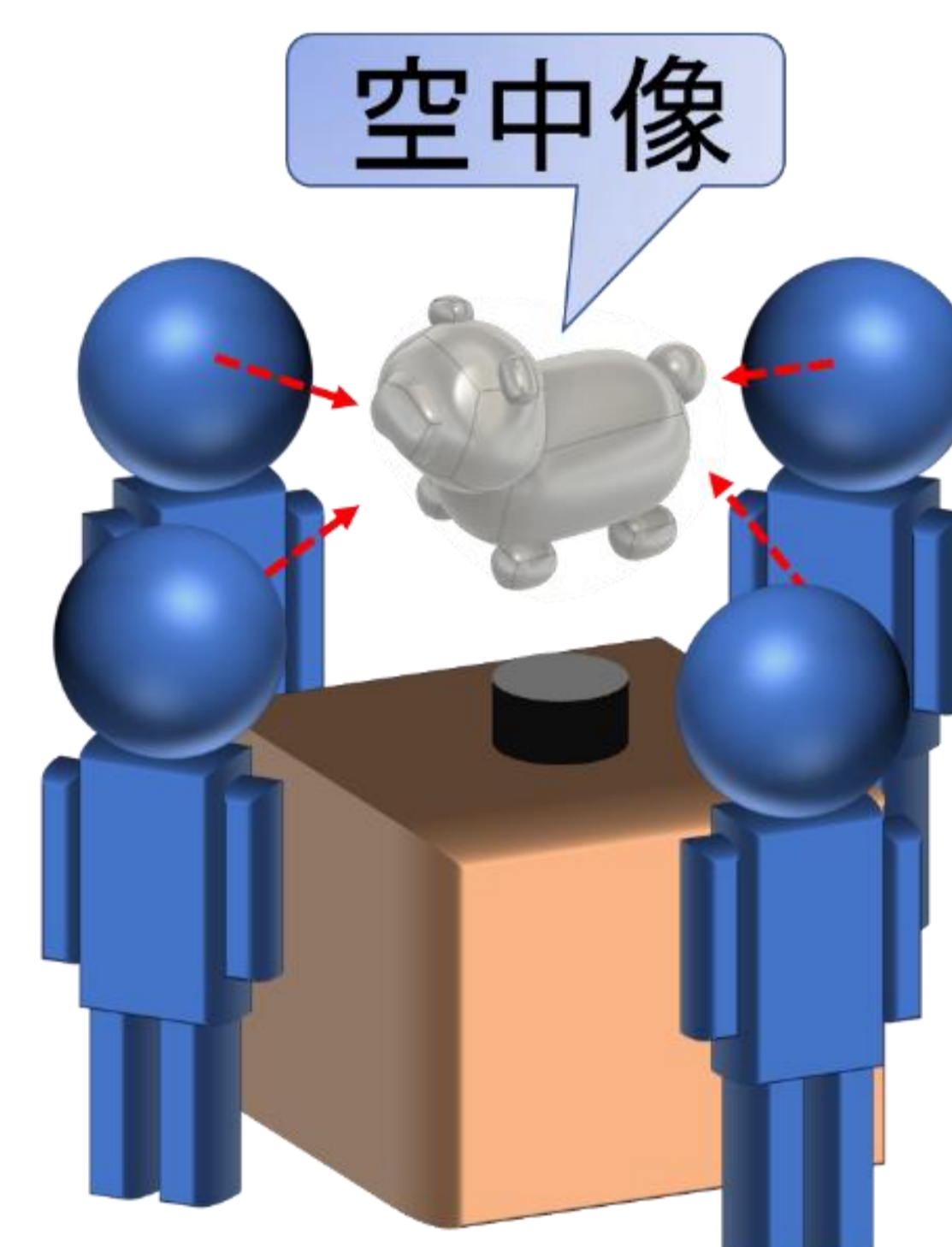
AR

Googleタイプの立体表示の問題点



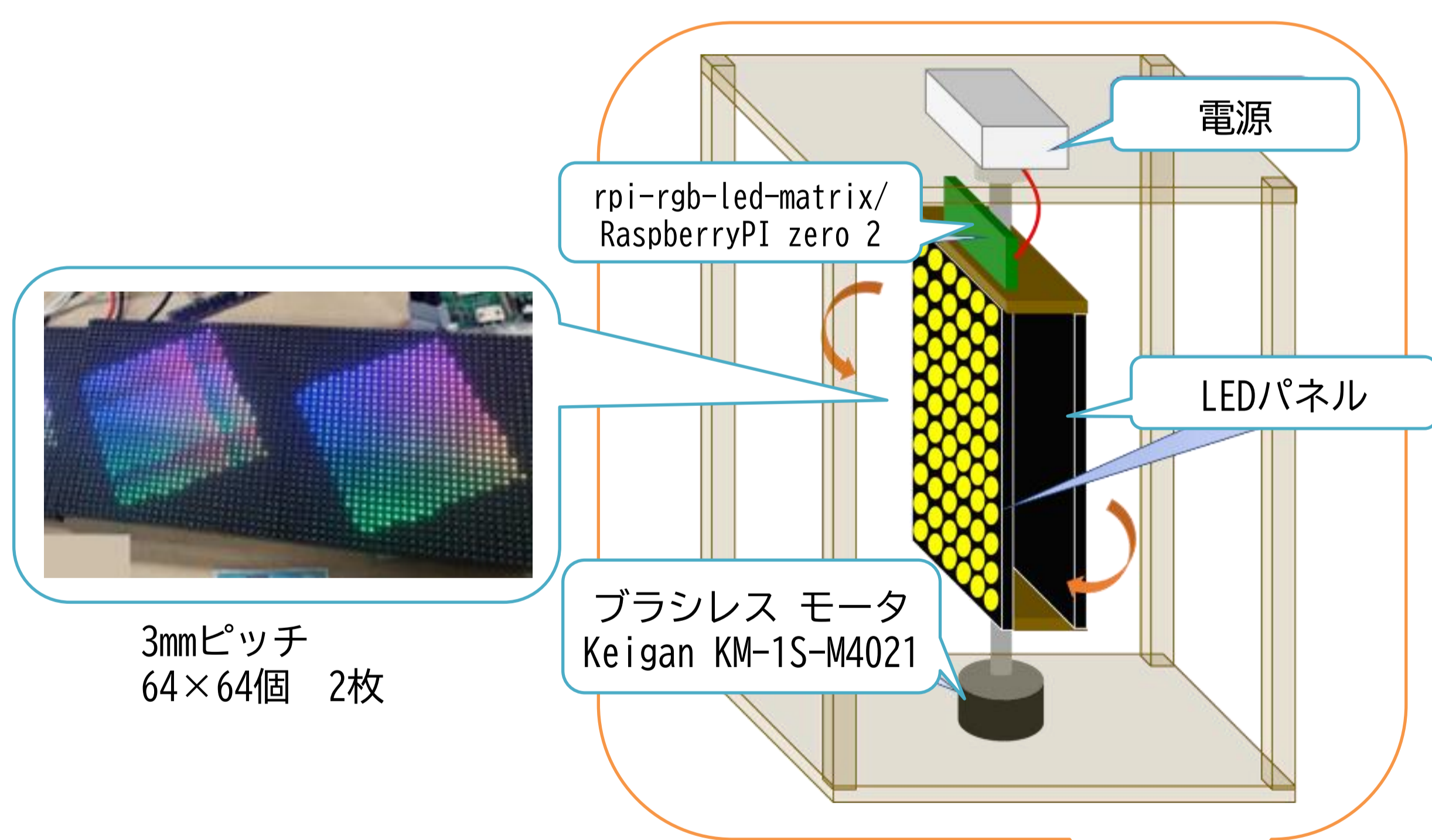
観察者が一人

①観察者の周囲を映像で取り囲む方法

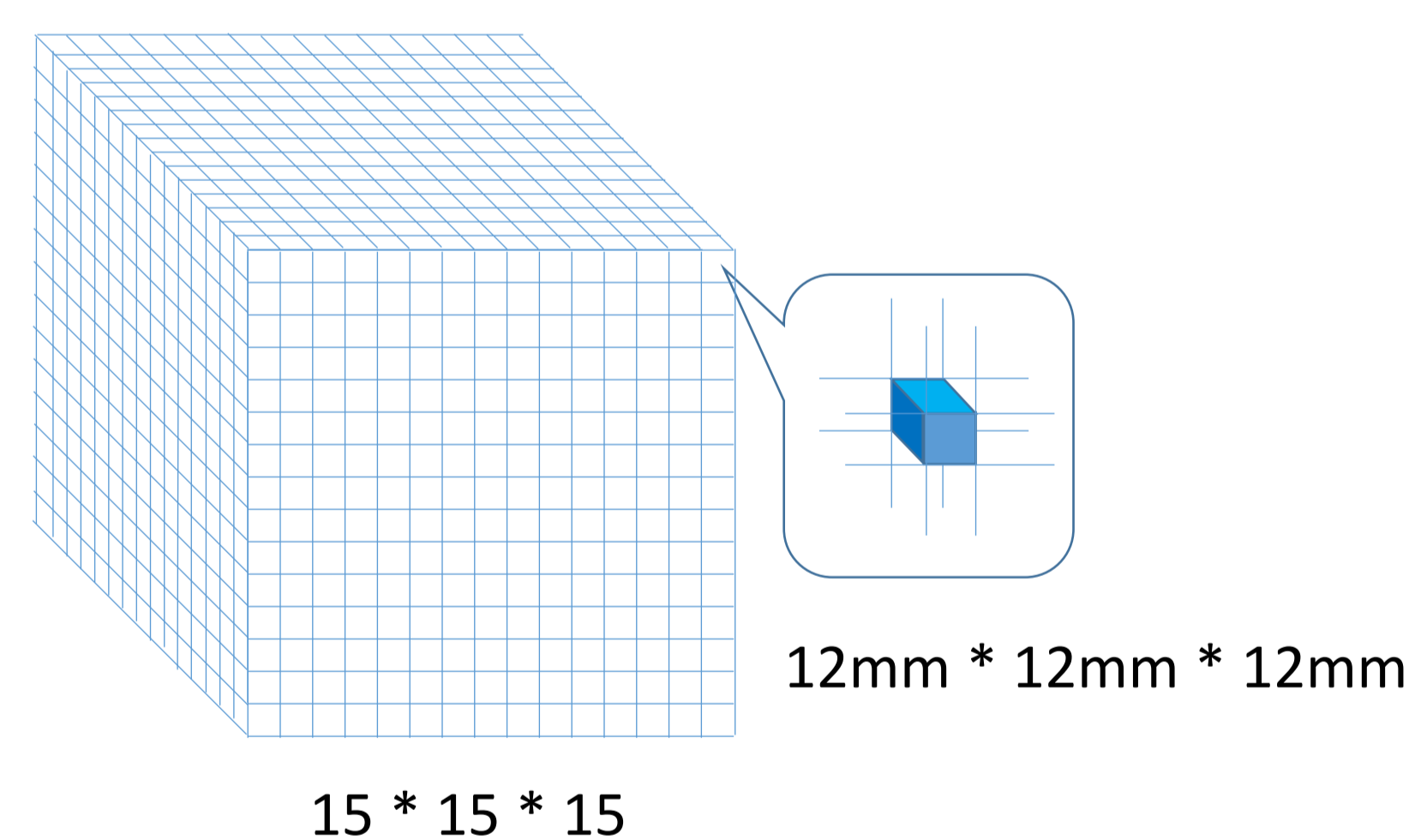


観察者が多数で同時に観察できる

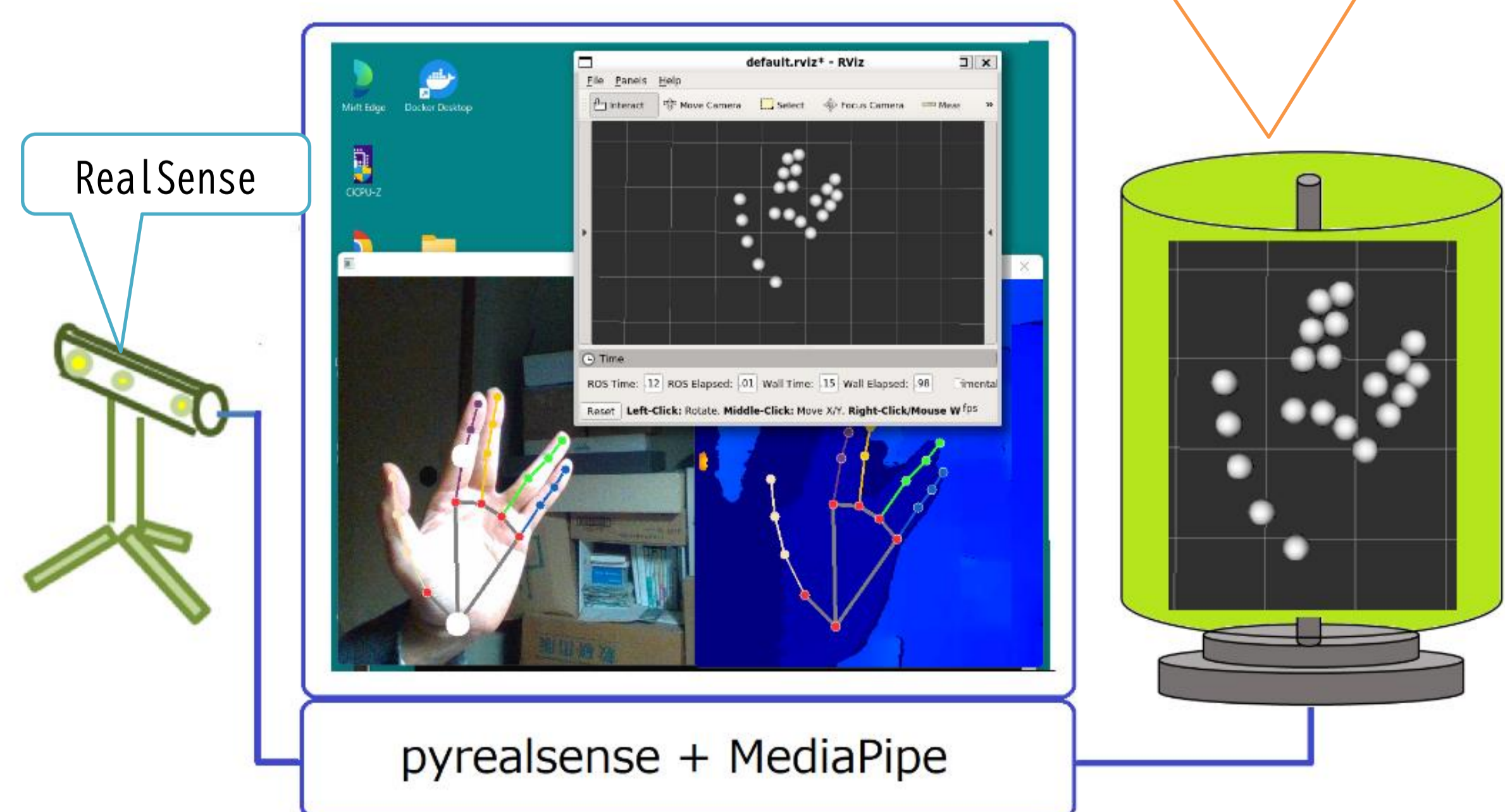
②立体映像の周りを動いて様々な角度から眺めることができる方法



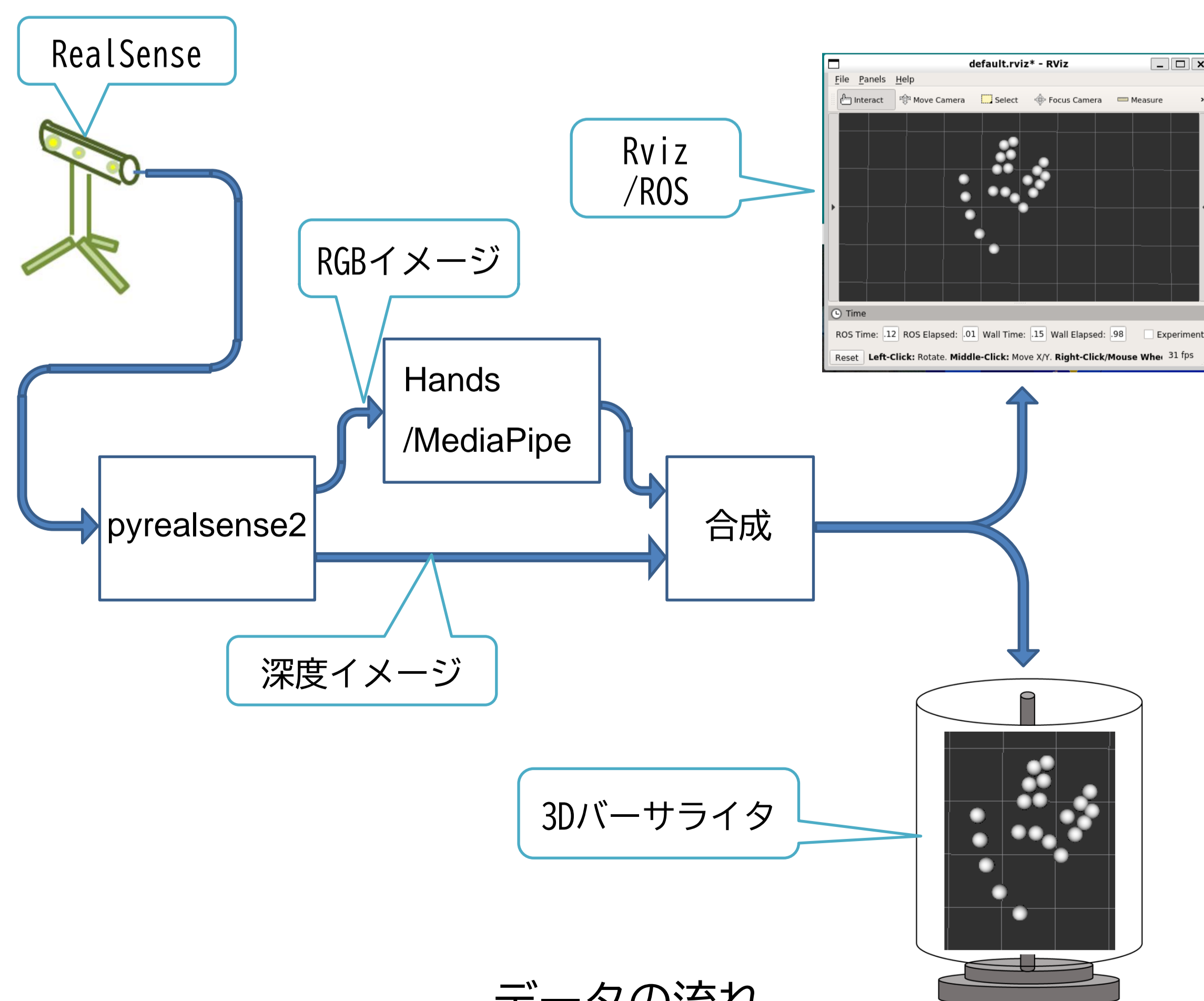
3mmピッチ
64×64個 2枚



表示データの構造



システム構成



データの流れ